

令和6年度まちかどミーティング会議録

開催日 令和6年10月29日（火）

地 区 しらかば町・豊川町地区

会 場 豊川コミュニティセンター

<意見交換>

◆市民 座ったままですみません。桜坂町町内会の総務を担当しています・・・と申します。

2点ほどあるので、1点目は、日新町町内会さんでも出ていました道路の区画線ということで、我がまちは、坂を上っていくと1か所カーブがありますけども、毎年、家に突っ込んだり、電柱にぶつかったりする事故が発生していたので、何とかならないかなということで、うちの会長と交通安全指導員、市の方とお話ししたところ、ドット線を先月引いていただいて、道路がはつきりするようになったことについては、誠にありがたく、感謝を申し上げます。ありがとうございました。

もう一点目は、昨年、我が町内会は熊が出たんです。熊のまちで市の方にもいろいろお世話になって、1週間ほど常駐されたこともありましたが、熊対策でトウガラシの臭いが出るやつをぶら下げていただいたんですが、なかなか効果が出なくて、今年、我がまちは忌避剤、ヒトデの忌避剤をちょっとテストで今ぶら下げているんですけども、結構、熊は来ていませんけども、効果があるみたいなんですけど、ちょっと値段が高い。18リッターで35,000円ぐらいするので、できれば苫小牧市の力で地域に援助していただければ幸いかなというご意見をさせていただきたいと思います。よろしくお願いします。

○司会 ありがとうございます。それでは、ただいま、ヒグマの出没について、ヒグマ対策として忌避剤を使っていて、その助成みたいなものがないかというようなお話だったと思いますが…。

◆市民 鹿です、基本は鹿ですね。

○司会 基本は鹿ということでしたが、回答のほうをお願いいたします。

◎環境生活課長 昨年はいろいろとお世話になりました。環境生活課の武田と申します。鹿と熊を担当しております。今のお話なんですけど、忌避剤ですね。実は、市のほうでも昨年来、いろいろと実験を重ねています。去年、熊出没の後に設置をさせていただいたトウガラシ成分のもの、あるいはヒトデのものも市も入手をして、各所に試験設置をしながら、その効果について検証しているところです。

ヒトデについては、やっぱり鹿よけの効果が一定程度認められるというところが、自動撮影カメラで確認をされております。ただ、問題点としては非常に臭いがきつくて、住宅地の近くではなかなか設置が難しいかなという課題が一つ見えているのと、どうしても臭い成分を基に対応するものですから、長期間置いておくことで臭いがどんどん薄まっていきます。そうした課題も検証しているところです。

市としては、昨年来、ヒグマ対策で忌避剤の実験ですとか、あるいはスプレーの貸出しですと

か、今日も実は植苗小・中学校でヒグマの対応訓練ということで、小・中学校の児童生徒の皆さんですとか、教師の皆さん、あるいは苫小牧警察署、北海道胆振振興局、ヒグマ防除隊、皆さんちょっと来ていただいて、実際にヒグマが出たことを想定した訓練を行うなど、こうしたヒグマ対応のスキルアップなんかにも取り組んでおります。

ヒグマ対策は、鹿も一緒ですけども、やはり総合的に取り組む必要がありますので、今回、こういう忌避剤のご意見もいただきましたので、こうしたご意見も参考にしながら、市としては効果のあるものをしっかり見定めて、皆様と協力しながら対策の支援なども考えてまいりたいと思いますので、その辺、もう少しお待ちいただければと思います。

忌避剤については、ちょっと市も検証していますので、何かこれというものがあつたら、また情報共有させていただきますので、よろしくお願いいたします。

○司会 それでは、ほかにどなたかいらっしゃいませんか。はい。

◆市民 しらかば西町内会の・・・といいます。まず2点ばかりお願いしたいと思いますが、1点目は、聞きたいのが、市のほうで町内の街路灯をLEDに設置していただいたんですけども、これが平成27年に設置してもらっているんですけど、これが10年保証ということで、いずれ期限が切れて、町内会でやるのはいつになるかという期限を確認したいです。

もう一点。線路側のほうに、しらかば四丁目なんですけれども、道営住宅というのが今2棟になったんですね。今、防災訓練や何かもやっているんですけども、現在は日新小学校が指定された場所になっているんですが、四丁目の人たちは、非常に津波等の場合だと、逃げるのに時間がかかるので、道営住宅あたりを避難場所に指定してもらえればというふうに考えております。以上、2点です。

○司会 ありがとうございます。ただいま2点いただきまして、街路灯に関することと、避難場所に道営住宅を使えないかということでしたが、まず、街路灯のほう、お願いいたします。

◎市民生活課長 市の防犯灯のほうを担当しております市民生活課の畑島と申します。

防犯灯のLED化ということで、平成28年に市内の防犯灯、一斉更新をさせていただきまして、8年が経過しているところでございます。メーカーの保証については10年ということで、その10年間に限っては、故障対応は市のほうで受け持ちますと。その間、次の更新に備えていただきたいということで、当時、各町内会のほうにお願いをさせていただきました。

それから時間が経過した中で、LEDの資材費の高騰とか、あと各町内会さんのほうでもなかなか維持管理が難しいというような町内会の意見も多くいただいているところでございます。

そのような中で、8年前にお話をした分担というか、責任の分担というところを改めて市の方針として再度整備をするということで、今、その整備の作業をしているところでございます。これを何とか年度内に一度整理をしまして、また改めて、その整理を再度考えて、各町内会、町内会連合会とも協議をさせていただきたいというふうに今考えているところでございます。以上です。

○司会 それでは、避難場所についての関係でお願いいたします。

◎危機管理室主幹 ご質問をありがとうございます。危機管理室の川崎と申します。この津波の浸水想定が非常に厳しい想定が出ました。しらかば町に関しましては、全域がほぼ1メートルから3メートル以内の浸水域というふうになっております。非常に厳しい地域だというふうに思っております。

今、しらかば町に関しては、南側でいいますと、パチンコ屋のコアビルの立体駐車場ですとか、工業高等専門学校の新井宿舎ですとか、そこを津波避難ビルに指定しております。北のほうに行けば、日新小と明倫中がありますけれども、すみません、今ちょっと道営住宅の四丁目のところなんですけれども、ちょっと後ほど詳しく聞かせていただきたいと思います、場所ですね。それでちょっと北海道のほうにも掛け合っていきたいなというふうに思いますので、よろしくお願いいたします。

○司会 それでは、道営住宅のほうについては後ほど場所を確認させていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。それでは、ほかにどなたかいらっしゃいませんか。

◆市民 有珠の沢町の・・・です。要望番号の9番なんですけれども、要望事項と取組状況の回答がかみ合っていないと思います。まず、要望事項のほうは、起伏が大きくなって困っているという話なんですけれども、苫小牧全体でもありますけれども、横波みたいな感じで起伏があるわけですね、道路に。あれは、よく観察、僕はよく見ているんですけども、恐らく上下水道なり、なんなりにつなげる工事を、例えば新しい家が建ったとき、家が建ったときにやって、掘り返して、また埋め直して、ああいう起伏ができてるように思います。

それは本当かどうか、僕は専門家じゃないので分からないんですけども、あれは市のほうが後から舗装し直すだの何だのというよりも、業者に対してもっと指導を強化して、ああいう道を造らないようにするというのが一番税金も使わないし、いいことなんだろうなと思います。かなり起伏が激し過ぎますよ。苫小牧のまち、僕、ほかのまちで見たことがないもの。

それから、もう一つ。高齢者の移動についてです、全然全くテーマが違いますけれども。高齢者の移動で、全国的にも問題になっていますけれども、苫小牧でもかなり高齢者が免許返上の運動もありながら、プレッシャーもありながら、車がなくなった時点で独り暮らしのお年寄り、あるいは夫婦のお年寄り、この人たちが自由に移動できない。タクシーを使う、年金の中からですね。錦岡の人たちなんかは片道で5,000円ですよ、王子病院まで。少ない年金の中でと、まあ、少ないか多いかは分かりませんが、そういう移動でお年寄りがすごく困っているんですね。タクシーとバスを使えばいいといっても、タクシーもバスも十分ではない。それから、タクシーは経済的な問題もある。いろいろな形で高齢者がすごく移動に困っています。

それに対して、今、答えはもちろん求めませんけれども、市として何とか、いろんな取組をしていただきたい。あるいは、今している取組に関してお話があるのであれば、聞かせていただきたい。以上です。

○司会 ありがとうございます。ただいま2点いただきまして、1点目が事前要望の9番に関すること、2点目が高齢者の移動手段に関することでしたが、初めに、9番の事前要望のほうからお願いいたします。

◎維持課長 道路を担当しています維持課、成田と申します。よろしくお願いいたします。今、ご質問いただきました環状線の変状の関係でございますけれども、こちらにつきまして、今、ご指摘いただきましたとおり、道路の下にはいろんな管が入ってございまして、そういったところの不陸が生じる現状がございしますが、私どもが把握しているのは、あの道路の地質的なものなんですけれども、軟弱地盤が下に入っているということもありまして、ちょっと沈んでいく、道路が沈下して沈んでいくというのが一つの原因だというふうに考えておりまして、今後、全面的な補修プランをやっていく必要があるんですけども、その辺は非常に大きなところですので、すぐになかなか手が出せないというところもありまして、これまでは部分的なそういった不陸のあるところの前後を削ってみるだとか、スムージングのような形での維持的な対応というのをさせていただいておりました。

今、ご回答させていただきました中でも、なかなかあれだけの規模の道路を改修するようなことも現状では難しいということもありますので、引き続き支障にならないように、維持的な対策として前後の段差を削るだとかということを、まずは通行に支障ない形の引き続きの維持管理というのを行わせていただきたいと思いますと思っております。

今後におきましては、まずはそういった不陸など全面的な改修に向けては計画だとか、設計だとかということも検討、今後に向けて進めさせていただきたいと思いますので、まずはちょっと維持的な対応ということで、支障のないようにさせていただきたいと思いますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

◎交通政策主幹 苫小牧市の乗り物を担当しております村上と申します。ご質問いただきまして、ありがとうございます。ご意見ですね。

一応、苫小牧市としての公共交通、全国的な話になっておりますけれども、ご意見をいただいたとおり、実際のところ、運転手不足ですとか、あと、2024年問題ということで、今年度からいわゆる運転手のインターバルを必ず確保しなさいとかで、非常に苦しい状況になっております。ただ、高齢者の公共交通を使っていただいているほとんどの方々というのが、いわゆる車が運転できない方ですとか、そういう方々で成り立っているというのも事実でございます。

苫小牧市として、どういうことをやっているんだというお話であったかと思うんですけども、実は、私たちでいうところの、やはり運転者不足をどう解消できるのかというところで、例えば、まだ先の未来の話になるかもしれませんが、運転手不足の解消のために新たなモビリティサービスとして、例えば自動運転のそういう挑戦とかということもやっております。

あとは、ちょっと最近、社会福祉協議会さんといろいろ協議をしている中で、勇払ですとか樽前のほうで移送サービスという、そういう有償運送サービスという、地元の方々のそういうボランティアの力を借りながら、白タクシー、白タクというのは駄目なんですけれども、そういう形でできる範囲で安価でいわゆる運ぶことができないかというところを挑戦したりもしております。

あとは、バスの車両というのがちょうど古くなってきて、ちょうど更新時期になっているんですけども、少しでも高齢者の方々に利用しやすいように、ノンステップバスを中心に更新を進

めたりもしております。

いかんせん、本当に運転手不足ですとか、実際に高齢化が進んできて、実際に高齢者の方が公共交通を使うのも、どういうところが難しくなっていくかということを含めて、なかなか答えが見つからないところではありますけれども、苫小牧市は今、先ほど言ったようなことで、答えがどういうふうな正解かというのは分からないながらも、こういう形で進めているというのが現状でございますので、いろいろご意見をいただきながら、市民の方々、皆様方と一緒に、少しでもいい方向に向かえるように取り組んでいきたいと思っております。以上でございます。

○司会 それでは、ほかにどなたかいらっしゃいませんか。

◆市民 宮の森町の・・・といいます。いつも個人的に一気に質問を出して、返事もいただいていたんですが、今年はまだ手元に届いてないので、たまたま今回、宮の森、こちらの町内会と一緒にということで、ちょうど、そうしたらちょっと聞いてみようかなと思っていることが一つ。

もう何年になるかな、五、六年になるんですかね。桜坂町の坂とこのヒューム管通りの交差点の道路標識の件で、標識の位置をきちっと考えた位置に新たに設置してほしいと。そのほうが、あそこを通る子供や大人の交通安全上もいいんじゃないかというふうにして、ずっと意見を出してきて、市のほうの回答は、いろいろ警察やそういうところに相談しているけど、予算がいろいろ問題があって、なかなかつかないということだったんですけども、やっぱり苫小牧の場合はブラックアイスバーンになったり、いろんな状況になるんですね。

それで、今回もずっと僕もあそこよく通るので、何回も通るたびに道路の様子を見ているんですけど、桜坂から下ってきた道路とあの道路が丁字交差するところがちょうど坂の頂点、道路の、坂の頂点になっているんですよ。そして、坂の頂点のところで札幌側のところに40キロの標識が立っている。それからちょっと先に行くと横断歩道なんですよ。僕、車を運転して50年以上になるんですけど、下りでのブレーキというのはすごく危険なんですよ、冬は特に。最近、車の性能がよくなっているから、皆さん、スピードをかなり出すし、60キロであそこに入っていって、60キロのスピードを急に40キロに落とすというブレーキをかけると、夏場はともかく、冬場はかなり危ない。ですから、宮の森側から行ったほうの上り坂になる辺りで、やっぱり40キロ制限をかけて、坂の頂点のところではもう完全にスピードも落ちている状態にしないと、運転上はすごく問題あると僕は思っているんです、前から。

今年、その辺がどうなっているのか、相変わらず見通しがいいのか。だけど、事故があって、子供が犠牲になると、全国でいつも同じなんですよ。歩道が整備されていないとか何だとか。どうも今までも、僕も現場に行ったときも分かっているんですけど、町内会と学校と両方が出ていないと、一致して出ていないと、なかなか難しいと。だけど、そうはいってもやっぱり気づいたときに手を打たないと、気づいて手を打ったときには遅かったというのでは、やっぱり駄目なんですよ。ぜひ、これを早く、僕は解決してほしいなと今でも思っています。もう本当に5年以上になるので、言うてから。ぜひお願いしたいと思います。

○司会 ありがとうございます。ただいま、桜坂町から下ってきたところの丁字路のところの道路標識についてということでしたが、回答をお願いいたします。

◎市民生活課長 交通安全のほうを担当しております市民生活課の畑島と申します。ちょっと回答がまだお手元のほうに届いていないということだったんですけれども、今回いただいた要望を基に、改めて苫小牧警察署のほうに移設の可能性についてお話をさせていただきました。その中で、警察署のほうからいただいた回答につきましては、速度規制の開始するところに標識を設置するのがまず基本的な考えになっているので、今おっしゃっている主張の中でのなかなか移設では難しいということで、まずは警察のほうからは回答はいただいているところです。

ただ、ここ数年、ずっとこのようなご要望をいただいているというところでもございますのでまず私たち、今、市のできることをして、スピードなどの看板の標識を坂の上の手前のところに、改めて市のほうでちょっと看板設置をつけることで、今ちょっと手配をかけているところがございますので、私たちのやれる範囲でまずちょっと対策のほうを取らせていただきたいなというふうに考えております。

○司会 それでは、ほかにどなたかいらっしゃいませんか。はい、今、マイクをお持ちいたします。

◆市民 こんばんは。有珠の沢町内会の・・・といいます。これ、去年も言ったんですけど、鹿対策、この12番。ネットと忌避剤、テスト的なことをしているとのこと。そのまま何か腐ったような形でぶら下がっていますけど、本当に確認してフォローしているのかというのがすごく疑問で、1年がたって、結局これ、何が効くんですか。これ、全国的なものだと思いますけど。

あと、これ、対策としていろんなもの貸出しはしていますが、結局ずっとじゃないので、僕も相談しに行ったことがありますけど、期間限定で貸し出されて、あとは自分で何とかしてくださいという、各人というか、個人任せですね。

非常に事故も多い。ここ30年、苫小牧に来て30年たちますけど、ここ15年ぐらいで鹿に4回、車で3回ぶつけられて、バイクに去年は体当たりしてきました。物すごく数が増えていますよ。これ、危機感はないんですか。非常に、町なかまで夜になると出ています。家のほうまで下りています。

夜、本当に怖いです。もう少しこれ、力を入れて考えて結果を早めに出してほしいなというふうに思います。以上です。

○司会 ありがとうございます。事前要望の12番の鹿対策についてということでしたが、回答をお願いいたします。

◎環境生活課長 先ほどから引き続きまして、鹿担当の武田と申します。鹿対策、この1年で何が強化されたかというところ、少しお話をさせていただきます。

まず、鹿については、全道で73万頭、これは令和5年度推計値ですけども、やはり全道的に増えています。苫小牧を含む北海道の西部エリアについては約20万頭いるという推計が出ておりまして、やはりこの地域も鹿が非常に増えてることは間違いございません。

その一方で、やはり鹿対策としては抜本的にその数を減らすしかないということで、北海道もそうですし、苫小牧市としても捕獲を行っておりまして、この1年間、約になりますけども、市の捕獲、狩猟、あと北海道の捕獲、あとは民間の業者でも会社の森林ですね、こうしたものを守

るための捕獲を行っておりますが、年間で約2,000から2,500頭を捕っております。ただ、その2,500頭を捕っている中でも、やはり周辺から鹿が侵入してくるようなケースもあって、なかなか数としては減少が見えないという課題を抱えております。そこについては、北海道にも協力を要請しながら、さらに、特に繁殖地になっている苫東での捕獲の強化ですとか、市としても今年度も捕獲事業を継続して、令和5年は173頭を捕りましたが、一応、今期は200頭を捕ると。さらに今、農業被害対策の捕獲も行っておりまして、500頭を目標に市の樽前地区錦岡、あるいは植苗、美沢で捕獲のほうを行っております。こうした捕獲を行いながら、さらには皆様のお庭ですとか、家庭を守るためのネットやライトの貸出しも継続しているところです。

先ほど、どうしても期間限定というところのお話がありました。これについては、多くのご要望をいただいている関係から、1年を通して継続的にお貸しすることが難しい状況ですが、そこはやはり各ご家庭の、どうしても被害が一番大きい時期を目指して、ご相談をいただいて、貸出しの期間が鹿の被害と合うような調整をいただければと考えております。

あわせて、交通事故の関係です。苫小牧は、やはり鹿の交通事故が多いまちでございまして、苫小牧警察署とも連携しながら、まず、注意喚起のところをさせていただいています。鹿の特性として、どうしても群れで行動します。道路から1匹出てきたら、その後に2頭、3頭、4頭と、大体群れは10頭ぐらいまでの群れをつくるケースが多いものですから、こうした群れが続いて出てきますので、皆様にも鹿の特性を少し踏まえた運転をお願いしていただきたいということ、あわせて、市のほうでも注意看板を増やしたり、注意喚起のほうも行っております。

鹿の特性を踏まえた対応と、市の対応、さらには、今、エゾシカ対策円卓会議ということで、苫小牧警察署ですとか北海道さん、あとJRを含めて、鹿に関わる皆様のお知恵をお借りしながら、何か鹿対策として新たな効果的な取組ができないかという会議のほうも年に2回開催しながら、知恵を出し合ってそれぞれやっている対策について情報共有したり、試行錯誤を重ねております。

鹿対策は、非常に今問題になっているということも意識をしております。今後、これという対策が、今、見えない中で、まずは数を捕ろうというところで努力を重ねておりますので、そこは引き続きよろしくお願ひしたいと思ひます。

○司会 それでは、ほかにどなたかいらっしゃいませんか。もし、最初、1回目でまだ発言したい方がいらっしゃいましたら、先にお受けしたいと思います。もしなければ、2回目以降お受けしたいと思います。まず、まだ発言されていない方で、何かございますでしょうか。なければ、2回目以降でも質問をお受けしたいと思います。先にちょっと手を挙げられていた前列の方からお願いします。

◆市民 しらかば西町内会の・・・です。さっき聞き忘れたんですけども、要望事項のNo. 3でお願いします。ここで取組状況の中で公園リニューアル時期というふうに書いてあるんですけども、具体的に、私ども、リニューアルをいつやるのかというのが分かりませんので、その辺の回答をお願いします。

○司会 それでは、事前要望の3番についてということでしたが、市のほうから回答をお願いいたします。

す。

◎**緑地公園課長** 緑地公園課の小山内と申します。よろしくお願いいたします。リニューアルの時期のお話がありました。今現状、あすなろ公園につきましては、近々リニューアルする計画というのは、今現在、持っておりません。10年ぐらいの計画をもって進めているところですけども、今現状としてはありませんが、その後、次の計画を策定する段階のときに、そこの公園が対象になってくれば、時期というのが明確になってくると思いますけど、今のところは持っておりません。

○**司会** よろしいでしょうか。それでは…。ごめんなさい、そうしたら、先ほど挙げていた方、…さんのほう、お願いします。

◆**市民** 宮の森の…です。ここに今日、集まっている町内会の中では、宮の森が一番ちょっと心配だなと僕は思うんですが、最近の全国的な大雨の状況だとか洪水の状況でちょっとやっぱり気になるのが、町内会の上の、いわゆる王子の山の状況がどうなっているのかというのが、以前、2年前かな、2年前にも質問したときは、市のほうでは問題ないという確認をしましたということだったんだけど、それから2年たっているし、たまに、昔、山に入ったりしたときも苦小牧の周辺の山というのは、表面がもう本当に薄い土しかかかっていないという、その下はもう礫の状態だということを考えると、この大雨が続いたときに上の山の状況というのは本当に大丈夫なのかと。市のほうでどれくらいそういう状況を把握しているのかなと。

いろんな洪水マップだとかというのが出ていますけども、特にうちの町内の場合、右側のほうは住宅地よりも川の面が低いんですね。だけど、いわゆる会館側は水面が高い。そうすると、氾濫するとすれば、町内会の会館側。前の大水が出たときには、町内会の周辺も軽く水についているという話を聞いていますから、そういう意味で、非常に心配なんですよ。市のほうで、あの後、いろいろ河川の改修やら何やら今年もやっていただいていますけども、やっぱりあれだけの雨をちょっと今までは僕たちも想定していなかったんですね。今年は何事もなかったですけども、その辺、市のほうで山の状況だとかの把握というのは、完全にはできないと思いますけど、どの程度しているんですか。その辺をお聞きしたいと思います。

○**司会** ありがとうございます。ただいま、大雨による山の土砂崩れのご心配ということでしょうか。山の状況が分かればということでしたが、回答をお願いしますでしょうか。

◎**危機管理室主幹** 危機管理室の川崎です。確かに昨今、北海道も大雨被害が多々出ております。2年前にもご回答さしあげておりますけれども、土砂災害の危険箇所というのは、北海道が土砂災害防止法に基づいて調査を行っているんですけども、その調査では、その部分に関しては再調査を行っているんですけど、その危険箇所の再調査を行うという可能性も伺っておりますけれども、今のところ、あそこが危険箇所で崩れてくるというようなことには、今のところはないんですね。

なので、市のほうとして、土砂災害危険区域というものを指定するわけではないので、あくまでもそれはちょっと北海道の調査、知見に基づきながら、こちらのほうとしてもハザードマップというのを作成しておりますので、すみません、今はそんなような状況になっております。

◆**市民** 日新町五丁目の…です。役員ではありません。初めてこういうのに参加しました。聞いてい

てとても勉強になるなと思いながら。

それで、今、雑草のことをおっしゃって、山のことをおっしゃった方がいるんですけれども、日新町五丁目のところにも王子の導水管というのがあります。その導水管のところがありません、かつてよりは除草がされていないというのを確認しています。それから、舗装道路の脇も確認されていない。

王子のほうにそういう除草をするように指導なさっているのかどうかだとか、それから、道路脇の除草と不在地主の方が結構いるんですけれど、そここの雑草がものすごいんですね。それが何ともはや、鹿の保養地になっているんです。王子のところの獣道を通して、その保養地に来て、のんびりと草をはんでいるというところがあるものですから、その辺の指導をなさっているのかというのと、除草の回数が減っているんじゃないかという思いもしているものですから、聞きたい。

もう一ついいですか、ついでに。除雪についてなんですけれど、皆さん、除雪は困ってないんでしょうか。私、だんだん年なものですから、生活にとっても困っているんです。除雪についてというのは、市道はどの程度されているのか。バス通りではないんですけども、きれいに除草、除雪してくださる業者さんと、圧雪しかしてくれない業者さんで、昼ぐらいに除雪に来るだとかね。みんなは、だから転んだりだとか、結構事故が起きていて、生活が困っているんで、一体、除雪をしてくださる方たちにどんな指導をしているのか、それから除雪の基準はどんなものなのかということをお伺いしたいと思います。

○司会 ありがとうございます。ただいま、まず、最初に王子導水管の草刈りのお話と、不在地主の雑草の件、それと最後、除雪の関係についてでしたが、初めにちょっと道路の草刈りの件からお願いいたします。

◎維持課長 道路を担当しています維持課、成田と申します。よろしくお願ひいたします。今お話がありました道路の除草につきましては、市道であれば我々が除草を行っているんですけど、今、王子の導水管の道路というところになりまして、王子の導水管につきましても我々のほうにもいろんな草刈りしてほしいというご要望は直接よくいただいていますので、そういった場合に、直接王子のほうに我々からお伝えして、除草していただくようお願いしているというのを毎年行っております。

ただ、また昔より頻度が下がったなということを今おっしゃっていただきましたので、引き続き、地域のご意見も、毎年のように我々もご意見をいただいていますので、粘り強く丁寧にやっていただけのように、協議、要望を続けてまいりたいと思いますので、お願ひいたします。

◎環境生活課長 環境生活課で不在地主の空き地の雑草のほうも我々が指導しているものですから、その辺の対応状況をお話をさせていただきます。

まず、空き地ですね。これは建物も何もないと。さらに、農地ですとか何かほかの業務をされていないような市街化区域の中の土地を、我々、空き地ということで取り扱っております、毎年6月に草丈50センチ以上の空き地に対して調査をかけています。50センチ、大体膝丈ぐらいになるんですけども、その調査を行った上で、土地の持ち主の方に依頼文書をまず出します。こ

れは、適切に草を刈っていただき、管理をお願いしたいという内容の文書になっています。

ただ、それでもなお、8月の時点で草が刈られていなければ、追加調査を行って、刈られていない草の土地の持ち主さんに対して、今度は注意の文書を送ります。これはちょっともう一段きつい言い方で、周辺の方から苦情や迷惑等の声が寄せられているので、至急対応いただきたいというお願いをしつつ、それでもなお刈っていただけない、やっぱり地主さんも最近おりまして、特に苫小牧市にいらっしゃらない不在地主さんですね。東京ですとか市外の方、なかなかご自分の土地の状況が確認されていないのか、周辺の声があるという文書にもかかわらず、刈っていただけないケースは、最後、勧告という一番ちょっときつい言い方で、至急対応いただきたいというお願いをしております。

ただ、我々も、これは根拠になる法律がない中で、市としてもお願いや指導という形を取っていますけども、結局、勝手に、例えば市が刈ったり、周りの方が刈ってしまうのは、土地への不法侵入ですとか、草ですので、財産性はないと思われるんですけども、仮にその方から自分の土地の草が財産であると言われてしまうと、訴えられてしまう可能性もあるので、それ以上は踏み込めないという問題も抱えつつ、粘り強く土地の持ち主さんには写真をつけて送ったり、早めに文書を送って改善を求めるとことはしているところです。

ただ、現状では、やっぱり毎年刈っていないところはずっと刈っていただけないと。でもお手紙は確かに届くんです。転送されずにちゃんと宛先には届いていますし、毎年その情報も更新をかけて持ち主さんに送っているんですが、対応の悪い持ち主さんがいるということも事実でございます。以上でございます。

○司会 最後、除雪の関係でお願いいたします。

◎維持課長 除雪の関係でございますけども、どんな指導をしているのかというところでございますが、我々も毎年、除雪に入る前に除雪会議ということで、全業者に対して、除雪業者に対して指導する会議を毎年行っております。その中で、どんなことをやっているかと申しますと、過去にこういった、例えば、押しボタンの信号のところがあるんですけども、雪を高く積み過ぎて押しボタンを押せないこともあったとか、そういった場所もありましたとか、いろんな物を壊した場所も、いつ、こんな状況で物を壊したとか、全てのいろんな、ある意味で失敗事例のようなものをストックしていて、それを全業者さんに各地区もいろいろあるんですけども、そういったところで説明していくというような会議なんです。

それでも、毎年、やはりなかなか百点満点が取れるようなちょっと除雪にはなっていないところはあろうと思うんですけども、我々もできるだけ地域の皆様にご不便をおかけしないような形になるように、一生懸命指導のほうは行っているところでございます。

それとあと、圧雪になった後、除雪の入る時期だとか、時間だとかも遅れるという話もございましたけれども、やはり市内1,000キロぐらいある、1,000キロ以上ある道路を管理しているんですけども、なかなか、例えば、降る時間帯、いつ降り始めるかという時間帯も様々な中で、ある程度、除雪も先ほど基準ということも言われましたけど、おおむね10センチ程度積もったときに、あくまでぴったりとかはないんですけども、定期的に観察し、観測しながら、10センチ程度にな

ったときに除雪、基本的には出動する体制を取っておりますが、それも天気の前報を見て、雪がもっと降り続くのか、または、一定程度で降りやむのかということについても、出動の時間だとかも調整しながら行ったりしてしまして、なかなか地域の皆様にご満足いただけるようなことにはなっていないところもあるのは実感はしているんですけども、できるだけご不便をおかけしないような形で除雪できるように、引き続き、除雪の業者さんに指導してまいりたいというふうに考えてございますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

○司会 どうぞ。

◆市民 改めて言いますね。桜坂町の・・・と申します。しらかば西町内会からも発言されていますように、防災無線の音量が小さくて役に立っていないと町民の方、もしくは市民の方が感じているんですけども、一昨年も改善しますという返答をいただいたはずなんですが、変わってないのはなぜでしょうか。

○司会 ありがとうございます。ただいま、防災無線の音量についてということでしたが、回答のほうをお願いいたします。

◎危機管理室主幹 危機管理室の川崎です。この防災無線の問題というのは、いろんな町内会さんからご指摘があります。それで、今までもスピーカーの向きを変えたりですとか、時差放送をしたりですとかというのはやっているんですけども、なかなか家の中にいてはっきり聞こえるというのは難しいというのは、これはもう北海道の住宅の特性でもありますけれども、なかなか全住宅に届けるというのは難しいというふうに思っています。

実際、ちょっと僕、この前、地方に行ったときに、防災無線がちょうど流れたんです。そのとき、外にいたというのもあるんですけど、はっきり聞こえたのが女性の方の肉声だったんですね。今、ほとんどが機械音声で流しているような状態です。それで、ちょっとこの肉声に関しても検討を始めようかなというふうに、去年の総合防災訓練のときも実際に、男性の声なんですけど、肉声で流したときに、結構聞こえたというお声がありましたので、ちょっとそれも選択肢の一つに加えて、聞こえの問題に関して、ちょっと考えていきたいなというふうに思っております。

○司会 それでは、ほかにどなたかいらっしゃいませんか。

◆市民 有珠の沢町の・・・です。川、今、大雨とか天候で結構水量が多くなっています。特にパークゴルフでちょっと苦小牧川の川沿いのパークに行っています。大雨のときはいつもずっぼりと埋まってというか、水であふれています。市のほうで、規制をかけて入らないように注意喚起をしています。でも、何であんなに水があふれるんですか。

というところで、有珠沢でいうと、去年も出たかと思えますけど、川の中、大木が立っているんですよ。それは道の管轄だと。話は行っているのかもしれない。でも、何十年、育っただけです。何の対策もしていない。それは水位が上がりますよね、当然、川底が上がってきているし、邪魔な大木がある。防災の面から考えても、市としてはそれをただ言うだけですとか、道に。市としてどういうふうな対応をしていくか。そこら辺をもうちょっとお聞きしたいんです。

○司会 ありがとうございます。ただいま、北海道が管轄する河川だけれども、大木があるせいで雨が降ったときに水量が上がりやすくなっているのではないかなというふうなお話でしたが、回答をお

願いできますでしょうか。

◎維持課長 河川を担当します維持課、成田と申します。よろしく願いいたします。苫小牧川、北海道の河川ということになりますけども、今ご指摘いただいたのは河川の河道内に大木があって流れを阻害するのではないかということだと思いますけども、そういったご意見は過去から私どものほうにも市民の皆様から届いております、ほかの課についてもそうですけども、やはり管理者が北海道ということで、北海道、今、ただ言うだけかということでお叱りを受けていると思うんですけども、やはり管理者は北海道さんなので、我々としては北海道のほうに適正な管理をお願いするということで要望活動をさせていただいているというのが現状でございまして、なので、市としてはただ言うだけかということでお叱りを受けることもあると思うんですけども、引き続き、粘り強く道のほうに適正な管理していただくようにご要望させていただきたいと考えておりますので、ご理解をお願いいたします。

○司会 それでは、ほかにどなたかいらっしゃいませんか。

◆市民 小さな意見も含めて言っているんですか。

○司会 はい。

◆市民 宮の森の・・・です。除雪だとかいろんな面に関わってくるんですけども、ちょうど僕の年齢も団塊の世代で、一番多い年代なんです。

今年も除雪と排雪についてお願いということで、意見要望は出したんですけども、やっぱりものすごく高齢化が進んでいるんですよ。苫小牧に来てからずっと思っているのは、僕はもともと函館で生まれて育ってきたものだから、冬の雪を除雪するなんていうのは子供と若いやつやることだと思っていたんだけど、苫小牧はやっぱり今の世代の構成も違うのでそうはいかないんだと思うけど、やっぱり年々高齢化が進んで、うちの町内会なんかでも除雪ボランティアの人というふうをお願いしたりしているけど、恐らくだんだん減ってきているんだと思うんです。

それで、やっぱり道路は除雪しないと歩けないし、車も通れない、救急車は通れない、消防車は通れないといったら、何かがあったときにどうしようもないですよ。それで、何とか頑張っでやっているんですけど、やっぱり高齢化には勝てなくて、足腰が痛いとか、力がないとかとなってくるなかで、コマーシャルでやっているのが全て本当に100%どうなのかという問題はあっても、いろんなウェアだとかロボットスーツだとかといって、自分の持っている力の2倍、3倍の力を出して、それを着たり装着するとできるというのが今開発されてきているんですよ。まだ値段は高いですけどね。

やっぱりそういうものをまず市が、それから道が、国が、高齢者に貸し出すとか、その費用を補助するだとかというふうにして、除雪の協力をお願いしたいと言うんだったら、やっぱり協力できる体制を取らないと、僕はやっぱり行政だけに任せても、もう無理な時代だと思うんです。

残念ながら、高齢者がお互いに協力しなきゃならない時代になっているのは事実だから、やっぱりそういう行政的な配慮だとか助成を、やっぱり市からどんどん出して、市のお金だけじゃできない話ですよ。やっぱりもっと前向きに、頼むと言うんだったら、頼めることをやってくれないと、どうしようもない。

うちなんかも今、僕の周りを見たら、もう向かい2軒、みんな高齢者だと。僕よりもあちこち痛いとかと言っている人がいるんですから。僕も腰が痛くて大変だけど、やっぱりみんなが使う道路だと思うから、除雪車が入る前にできることはやる。自分のうちの隅だとかとやっているけど、もう本当にあと何年できるか分からない。ということも含めて、もっと行政的にいろんな手を講じていただきたいと思います。

○司会 ありがとうございます。ただいま、高齢者が多いということで、除雪の支援についてということでしたが、回答をお願いいたします。

◎維持課長 除雪を担当しています成田と申します。よろしくお願いいたします。今ちょっとご提案いただきました、例えば除雪だとかに使うパワースーツのような、ロボットのような力を補助するようなものが市で貸出しをしてみないかということだと思っておりますけれども、なかなか今、我々もちょっとそういったもの、私も同じくテレビで拝見して、こんなものがあるんだなという程度のまだ知識しかございませんので、今後、そういったものを導入しているところもなかなか今、ぱっと思い浮かばないんですけれども、いろんなところの各国の方、日本のいろんな各都市の事例だとか、あと、そういったスーツが今販売しているかどうかというのも含めまして、ちょっと我々も勉強してまいりたいというふうに考えてございます。なかなかいい回答ができなくて申し訳ないですけど、我々がもっと勉強してまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

○司会 それでは、お時間が近づいてまいりましたが、ほかにどなたかいらっしゃいますでしょうか。

◆市民 日新町の・・・です。要望の11番について。これ、環状線で、横断歩道のラインが消えかけているということで、町内会に要望して、何とかしてくれということをお願いしたら、年内に再塗装みたいなので、ありがたいなと思ってお礼を言いたくてここへ来ましたので、よろしくお願いいたします。

○司会 それでは、お礼ということでよろしいですかね。要望番号の11番に関して、今、お礼をいただいたということでしたが、はい、ありがとうございます。

それでは、これで意見交換のほうは終了させていただきたいと思います。

最後に、本日のまちかどミーティングの終了に当たり、山本副市長よりご挨拶させていただきます。

◎副市長 皆さん、本日は様々な貴重なご意見をいただきまして、誠にありがとうございました。

実は、私も何回かこの地区のまちかどミーティングも出席させていただきましたが、同じく鹿・熊対策、こちら、やっぱりどこの地区におかれてもお話しております。抜本的な対策として、やっぱり数を減らすということしかないわけなんですけど、これが一度に大量にはいかないというところがありますので、そういった中で我々市もできる限りのことはさせていただいているところでございます。

そして、交通安全対策で、こちらそれぞれの地区で、ここに横断歩道が欲しい、信号が欲しいというようなお話、新たな標識も立てていただきたいというお話をいただいているところでございます。これ、北海道の公安委員会の管轄ということで、我々としては地道に毎年毎年、苫小牧警察

署なり道警本部のほうに要望させていただいております。これ、皆さんのまたご意見をいただきながら、要望を地道に重ねていきたいと思っております。

このように、ただ、先ほど申しましたとおり、法定の標識は無理でも、市のほうでスピードダウンとか、そういった法定ではない市でも市の権限で設置できるような看板は、必要とあればすぐ対応させていただいているところがございますので、今日もいろんなご意見をいただきましたが、すぐにできること、できないことがございますので、すぐにできることについては我々もすぐに対応していくという姿勢で取り組んでまいりたいと考えてございますので、ご理解をよろしくお願いいたします。

今、高齢者の方々も問題、課題も多々いただきました。除雪しかり、交通問題しかり、ただ、これにつきましても、これをやればという抜本的な対策はないわけですが、今、社協さんのほうでやっている移送サービス、こういったものをもっと拡大できれば、もう少し便利のいい交通体系ができるかもしれません。

そして、除雪のほうも、先ほど・・・さんがおっしゃったパワースーツですね、もともと介護施設の介護福祉士用に開発されたものなのですが、これが多分、除雪の動きに対応できるかどうかという、まだまだ問題があると思います。まだできて10年がたっていないものでございますので、まだまだ改良がされれば、もっといいものが出てくるかもしれません。それについては我々も調査研究を重ねてまいりたいと思います。

途中でですね、今、行政課題がいろいろありますけども、今後も皆さんの貴重なご意見をいただきながら、我々も気づかない点があると思います。皆さんの意見をお伺いする中で、改善点が見つかるということもありますので、今後ともご協力をよろしくお願いしたいと思います。

本日は長時間にわたりまして最後までお付き合いいただきまして、厚く御礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

○司会 以上をもちまして、まちかどミーティングを閉会いたします。本日は誠にありがとうございました。